

遠隔病理診断

支援システム

画像処理のUSD

画像処理装置などを手掛けるユーエスディ（USD、川崎市、小島秀作社長）は遠隔病理診断支援システムを開発した。

専門医がインターネットを通じて離れた病院にある顕微鏡を操作する。圧縮高速転送された高精密度動画を見ながら的確に診断できる。

がん細胞などを検査して、悪性かどうかを見分ける病理診断の専門医が

不足していることに対応する。手術中にも迅速に診断できるように、顕微鏡のすべての機能で自動制御を可能にした。観察位置も上下左右に自由に移動できる。価格は千二百万円程度。初年度十台の販売をめざす。